

# 行政視察報告書

令和8年1月7日

会派名 翠新クラブ  
報告者 松尾徹郎

1. 視察議員名  
松尾徹郎 宮島宏
2. 視察期間  
令和7年11月20日（金） 1日間
3. 視察先  
新潟県 十日町市
4. 視察目的
  1. 使用済み紙おむつの燃料化実証事業について
  2. 医療福祉総合センター運営事業について
  3. 究極の雪国を活かした地域活性化事業について
  4. 広域観光連携（雪国観光圏）について

## 新潟県十日町市政務活動報告

### 1. 使用済み紙おむつの燃料化実証事業について

十日町市環境エネルギー部環境衛生課（エネルギー政策係 内山慶彦氏）より、「使用済み紙おむつの燃料化実証事業」について説明を受けました。

この事業は、「エネルギーの地産地消」及び廃棄物政策として「リサイクル資源循環」を目的に平成26年度から令和6年度までの10年間にわたり実証実験を行ったものであります。

十日町市は当市と同様、人口減少と高齢化の進行、特に介護を必要とする要介護者の増大により多くの課題を抱えています。その中でも「使用済み紙おむつの問題」を解決するべく、「使用済み紙おむつ」をエネルギーとして活用できないか検討を重ね、平成26年より実証実験を開始しました。

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 平成26年度 | 燃料（ペレット）製造実験                        |
| 平成28年度 | 燃料化施設基本設計及び製造実験                     |
| 平成29年度 | 燃料化施設実施設計及び各種試験                     |
| 令和元年度  | 運営事業者の公募及び選定 公設民営で実施<br>燃料化施設整備工事発注 |
| 令和2年度  | 運営事業者と事業契約締結 燃料化施設竣工                |



令和3年度 実証実験開始

令和6年度 実証事業停止中

また、この事業における事業費は2億5685万円であり、財源内訳は以下の通りであります。

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 財源内訳 | 国補助金  | 1億円（エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費） |
|      | 起債    | 1億円 一般財源 5685万円           |
|      | 運営主体  | 社会福祉法人 十日町福祉会             |
|      | 製造施設  | 十日町市エコクリーンセンター            |
|      | 熱利用施設 | ケアセンター三好園しんざ              |

実証事業における工程

第1工程 回収した紙おむつをエコクリーンセンターで焼却し、約20時間紙おむつを乾燥・滅菌する。

第2工程 焼却物とおが粉を4対6に混合し、さらに細かくしボイラー燃料として「ケアセンター三好園しんざ」へ搬入。そこで紙おむつを無臭ペレットに製造。

紙おむつペレット専用のボイラーを新規開発し、既存の灯油ボイラーの補助設備として設置することにより、ボイラーで沸かしたお湯をタンクに溜めて施設の給湯に利用しました。現在この事業を通じて新たな課題が出てきたことにより、実証事業は停止中です。

事業そのものは、技術的には可能であるものの、小さな炉で燃やすとなるとカロリーが高すぎて炉が傷みやすいという問題。また、小規模の温水ボイラーの燃料とした場合、不適格であるという点。更には大きな炉で燃やすとなるとカロリーが低すぎるため、廃プラや古紙を原料とする固形燃料としての市場性が低いことが実証されました。つまり、カロリーが中途半端で使いにくく、技術面での課題が浮き彫りになりました。

この実証事業により、ボイラーの維持費がかかりすぎることが判明し、また、紙おむつの燃料化による処分コスト削減と、事業化により生じるコスト（修繕費、人件費など）の比較を検証することになりましたが、結果は赤字であり、費用対効果・実用性・普及可能性が低いことが判明しました。

結論として、この事業は経費面等を考えた場合、一自治体で行うよりも大規模な自治体、もしくは複数の自治体で事業を実施することにより、採算性から見て実現可能性が高いのではないかと考えます。「使用済み紙おむつの燃料化」という着眼点は無視できないと考えます。現在のところ採算ベースで課題があるものの、北海道の幌延町はじめ鳥取県の伯耆町（ほうきちょう）が実施していると聞きます。今後の推移を注意深く見守りたいと思います。

## 2. 医療福祉総合センター運営事業について（市民福祉部地域ケア推進課）

市民福祉部地域ケア推進課より地域包括支援センター、及び高齢者福祉全般にわたり、現状と課題について研修いたしました。

十日町市は糸魚川市と同様に高齢化が進行し、高齢者福祉全般にわたる諸課題を解決するため、令和2年4月に「十日町市医療総合センター」を開設しました。この施設は市民が安心して医療を受けられるための体制整備の推進、また高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域医療・福祉の充実を目的として開設された施設です。

この「医療福祉総合センター」には、十日町市地域ケア推進課、在宅歯科医療推進室、障がい者基幹相談支援センター（福祉課）社会福祉協議会、地域福祉課（生活困窮関係）障害者地域生活支援センターあおぞら、障害者就業・生活支援センターあおぞら、訪問看護ステーション、（一社）妻有地域メディカル&ケアネットワークなどの福祉関係機関が設置されている複合施設です。

施設の設置目的については

### 1. 休日の救急医療体制の充実

以前の休日救急診療センターは圏域の2次救急医療を担っている県立十日町病院から離れていることから、1次救急と2次救急の連携や患者の移動課題を解決することにある。

### 2. 医療福祉を取り巻く環境変化への対応

全国と比較し高齢化が進んでおり、地域包括ケアシステムの実現に向け、在宅医療と介護サービスの一体的な提供体制づくりを必要としていた。

### 3. 看護職員の不足

- ・看護職員の不足から市内病院で入院病棟の廃止や在宅医療に不可欠な訪問看護ステーションなどの人材確保を必要としていた。
- ・新潟県では介護職員確保のため、平成25年12月作成の「看護職員養成施設検討事業報告書」の中で「魚沼地域の十日町病院等、県立病院への看護職員養成施設」について検討するとした。そこで十日町市としては市内の看護師不足解消、人口流出の減、中心市街地の活性化を目的に高等教育機関の誘致を積極的に進めた。

この施設整備により、センター内の横の連携が取りやすくなり、介護・福祉・保健・医療・見守りに関する総合相談窓口についても適切なサービスの紹介や見守りなど、多方面から支援サービスを行うことが出来ました。

また、新潟県立十日町看護専門学校の併設により、十日町圏域の医療・福祉・教育の連携拠点として地域医療・福祉の充実が図られています。

### 3. 「究極の雪国」を活かした地域活性化事業について

新潟県十日町市は世界でも類を見ない豪雪地であり、古来より雪と戦ってきた地域であり、平年の積雪が2メートルを超える世界有数の「雪国」です。

1年の半分近くを雪と共に暮らし、その類稀なる地域の歴史的的魅力や特色ある文化を、5つの物語で紹介している「究極の雪国とおかまち一真説！豪雪地ものがたり」は令和2年（2020年）「日本遺産」に認定されました。

「究極の雪国とおかまち一真説！豪雪地ものがたり」について

#### 1. 着ものがたり

十日町市は国内でも有数の着物産地です。織物産地としての歴史は古く約1500年前の遺跡から布の生産をうかがわせる資料が出土しています。特に「越後上布」は古代よりこの地で生産されており、貴族や武士階級の夏の衣として珍重されていました。戦国時代には戦費を賄う重要な財源として生産が奨励され、一大産地とし、現在に至っております。

これら織物は、冬季間女性の仕事として雪と暮らすうちに「辛抱強さ」と「繊細さ」を身に付け、長い年月をかけて織られた伝統産業です。

#### 2. 食べものがたり

雪国の冬は長く厳しい冬の間、古来より食べ物にも知恵と工夫で耐え忍ぶ生活を強いられてきました。収穫した食料の保存、山菜やきのこは塩漬けや干すことで保存食として、また野菜類もワラで覆い雪の中で保存することにより、湿度と温度のバランスで凍らずに長持ちさせることが出来るなど、特色ある食文化を生みました。また、「雪」を逆手に取り、夏まで冷蔵、保存し、食物の持ち味を引き出す「雪穴」や「雪室」といった大量の雪を活用し、貯蔵庫として利用するなど、環境にも優しい点で多方面から注目されています。

加えて特産品として有名な「十日町そば」は、織物の糸を紡ぐ際にも使用する海藻「ふのり」利用することにより、コシの強さと喉越しの良さで名物となっています。このように、雪国で育まれた「食文化」は特異性があるだけでなく、「雪」というハンディを克服し、日本文化としても誇れる「食文化」です。

#### 3. 建ものがたり

豪雪と共に長い冬は、家の構造を丈夫なものにしなければなりません。急勾配の茅葺の屋根、雪に耐えうる太い梁や柱、また冬季間、居住と作業所を兼ね備えた構造など随所に卓越した技術を施し、黒光りする風情ある雪国の建築物は、外国人建築家からも高く評価されています。冬の間、雪の始末に追われ重労働が重なる日々が続く中、現在では、高床式の住宅や落雪、融雪屋根の技術が開発され、雪国の暮らしを知恵と工夫で乗り切る術を身につけ、逞しく生活しています。

#### 4. まつりものがたり

豪雪地帯であり、日本有数のコメどころでもある十日町には、稲作と深い結びつきを持つ独特の文化としての「祭り」があります。例えば、待ち遠しい春を迎えることを願う「鳥追い」は小正月の伝統行事です。また、新婚の男性を雪の中に放り投げるユニークな祭り「婿投げ」は、無病息災や家業繁栄を願う祭りの1つであり、時代が移り変わっても江戸時代から続けられている伝統行事です。これらは十日町市民の豪雪と共に生きてきた歴史や文化の物語であり、「雪と闘い、雪を受け入れ、雪を活用し、雪に親しみ、雪に楽しみを見出して生き抜いてきた暮らし」の物語と言えます。

#### 5. 美ものがたり

海外からも注目されている棚田の原風景は、世界で活躍する写真家や外国人からも注目されている「自然の美」です。農作業として重労働を強いられ、かつては厄介者として扱われていた「棚田」が、今では「美しい自然」として注目を集め、地域の人々も誇りに思い、今では地域が力を合わせて管理、保存に力を注いでいます。田植えのころの新緑や稲刈り後の紅葉の美しさなど、今では地域住民の誇りとなっています。また、清津峡をはじめ周辺には美人林など、サイクリングやトレッキングとしても評価されている、自然豊かな景観を兼ね備えたスポットが点在しています。

### ま と め

十日町市は令和2年(2020年)に「究極の雪国とおかまち―真説豪雪地ものがたり」が「日本遺産」に認定されました。この「日本遺産」とは地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るものとして文化庁が認定するもので、地域の文化・歴史を語る上で欠かせない魅力溢れる有形・無形の様々な文化財を総合的に整備・活用し、国内外へ発信することで地域の活性化を目的としています。

十日町市は長い歴史の中で、米作を中心に冬季間の豪雪により、閉ざされた地域の中で特色ある文化と歴史を刻んできました。それは「衣・食・住」をはじめ「祭り」など地域特有の文化にも表れています。かつて「雪」は生活していく上で厄介者扱いされていましたが、それを逆手に取り、利雪・克雪を紹介するとともに、雪国文化と雪国の営みを観光資源として、外国人をはじめ、雪の降らない人々にアピールすることにあります。十日町市民誰もが語れる豪雪地のくらしを描いた物語、「究極の雪国」から生まれた文化観光コンセプト「SnowRichTourism/スノウリッチ\*ツーリズム」として表現されています。

#### 4. 広域観光連携（雪国観光圏）について

平成25年4月に設立された「(一社) 雪国観光圏」は国土交通省肝いりの観光地域づくり、即ち地域連携DMOの1つです。構成メンバーは、新潟県（湯沢町・南魚沼市・魚沼市・十日町市・津南町）、群馬県（みなかみ町）、長野県（栄村）の7つの自治体であり、雪国観光エリアの新しい旅のスタイルとしてそれぞれ観光資源の連携を図りながら、1つの観光地として観光メニューを作り上げています。

雪国観光圏は、「100年後も雪国であるために」を理念に、住民自らが地域に希望と誇りを感じ、自分たちの暮らしや文化を活かした地域づくりを推進することが重要であると考えています。ただ単に観光客を増やし地域内の経済を活性化させることを目的としているのではなく、これらの理念を事業に結び付けていくことが重要であると考えています。

その中核となる「雪国観光圏推進協議会」は、住民、その他利害関係者の意見を反映させるため、7市町村の観光まちづくりに関わる多種多様な団体を構成メンバーとしている点に大きな特徴があります。

主な取組として、インバウンド観光の推進や国内旅行者の拡大に向け、「雪国文化」を軸にして4つのゾーニングを設定しています。

##### (1) 圧倒的な降雪量と国内を代表するスキー場の集積地

湯沢町を中心に多様なスキー場があり、また、温泉宿泊施設も多く存在しています。冬場だけでなく、グリーンシーズンではスキー場の傾斜を活かしたマウンテンバイクやトレッキングなどアクティビティメニューを開発しながらスノーリゾート地としての新たな観光振興を図っています。

##### (2) 豊かな食文化が残るローカルガストロノミー

「魚沼産米」として有名な米どころの産地であり、また、雪国の知恵と文化として、特産品の一つである「蕎麦」をはじめ郷土料理、冬季間の保存食として「雪室」「雪穴」を活用して野菜の発酵食品や山菜のなど、各自治体が連携を図りながら、雪国ならではの食文化をアピールしています。

##### (3) 豊かな水源に恵まれた自然と共生を目指すエコリゾート

豊かな田園風景と清流魚野川が流れる地域の中心部、また清津峡などサイクルツーリズムに適した地域であり、国土交通省によるナショナルサイクルルート（NCR）認定に向け、サイクリストの環境整備に取り組んでいます。

##### (4) 持続可能な里山との共生、大地の芸術祭と縄文文化

世界有数の豪雪地帯でありながら5000年も遙か昔から、火焰型土器に代表されるように、この地で縄文文化が芽生えていました。先人たちはどのようにして長い冬を克服してきたのか、そこには雪国ならではの食文化と知恵が隠されています。豊かな里山やブナ林（美人林）をはじめ、山間には

棚田の風景があります。そこで開催される「大地の芸術祭」は長い間育まれてきた文化やその営みを芸術を通して発信しています。

このようにして（一社）雪国観光圏の事務局には、観光地域づくりマネージャーやブランドマネージャーとして外部人材を活用しながら、観光圏域内の事業所を対象としたマーケティング支援やマネジメント支援、地域住民の啓蒙活動などを行っています。十日町市は、「雪国観光圏」のほか「信州いいやま観光局」の関係自治体であり、観光メニューをはじめ観光食材など広域的に連携を図りながら地域活性化に取り組んでいます。

